研修　評価

<table>
<tr><td>研修名</td><td colspan="5">医療安全管理者養成研修（演習）　安全文化の醸成</td></tr>
<tr><td>領　域</td><td>医療安全管理者または 1 年以内に医療安全管理者になるもの、オンデマンド研修(35 時間)を修了した者</td><td>会場</td><td>看護研修センター</td><td>受講料</td><td>日本看護協会 HP 参照</td></tr>
<tr><td>対　象</td><td colspan="5">学習段階レベル（Ⅰ・Ⅱ）
募集数(60 人)　応募数(49 人)　参加数(47 人)　会員数(45 人)　非会員数(2 人)</td></tr>
<tr><td>日　時</td><td colspan="5">令和　6 年 11 月 1 日（金曜日）　10：00～16：30</td></tr>
<tr><td>ねらい（目標）</td><td colspan="5">安全管理業務の遂行にむけ、既習の知識・技術をもとに、より実践的な学びを深める。
１）医療機関内において、医療事故事例やヒヤリ・ハット事例の報告と共有を効果的にするための体制の整備
２）医療事故の発生予防や再発防止を効果的にする体制の確立
３）発生予防や再発防止を目的とするため、医療事故やヒヤリ・ハット報告者を非難しない組織文化の醸成</td></tr>
<tr><td>講　師</td><td colspan="5">長谷川恭子氏　新潟白根総合病院　医療安全管理部　副部長</td></tr>
<tr><td>内容・方法</td><td colspan="5">〇講義内容
1）安全文化の醸成
安全文化と４つの下位文化、安全文化の醸成に向けた活動
2）演習：事例をもとに医療安全の体制整備や組織文化の醸成の方法を検討する。受講者は医療安全管理者という設定で、既習の知識・技術を統合し、解決方法や自己の行動を考える。
3）患者・家族の医療参加
患者・家族の医療への参加方法、遺族の立場で考える医療安全
〇研修方法：　講義・演習</td></tr>
<tr><td>結　果
評価基準：
①参加数が募集数の70%以上
②研修内容の理解度（できた、ほぼできた）80%以上
③自己課題の達成度又は研修目標（知識技術）の習得度（できた、ほぼできた）80%以上
④アンケートの意見</td><td colspan="5">〇参加者数　47 名　78%　【(達成)・未達成】
〇アンケート結果（回収率 98%）
・理解度　95.7%　【(達成)・未達成】
・自己課題の達成度 91.3%　【(達成)・未達成】

〇受講者の意見
・医療安全は日々進化し、多職種で考える事が重要だと学ぶことができた。
・RCA 分析の研修がとても参考になった。
・演習が難しい。部署で同じことができるか不安ですが、できるよう経験をしていきたいと思う。</td></tr>
<tr><td>評　価・総　括</td><td colspan="5">〇目標達成の評価：【研修会の目標は達成した・達成しなかった】
・テーマ・目標・企画内容・時間配分など：適切であった。
・アンケート結果：理解度、課題達成度も高く、研修内容も「満足できた」「ほぼ満足できた」97.8%と高かった。
〇総括：研修では、オンライン研修での学びを振り返り、演習では RCA 分析を行った。事例が身近で分かりやすかったことで、理解度・満足度も高く、学びをより深めることができたと考える。</td></tr>
<tr><td>課　題</td><td colspan="5">・特になし</td></tr>
<tr><td>担当者</td><td colspan="5">医療・看護安全委員</td></tr>
</table>